気を惹く◎木の建築

―111―

呉信用金庫矢野駅前支店

木造で温かみのある支店

設計提案で木造案採択

呉信用金庫（本店・広島県呉市、日田克也理事長）は、同信金で2店目となる木造の矢野駅前支店（広島市安芸区）を建設し、旧店舗から移転して3月23日にオープンした。

同信金は、呉市や周辺にきめ細かく支店を配置し、地域密着型の金融サービスを提供。それぞれの支店は特徴ある建物を建てていく」「温かみがあり、金融機関を感じさせない」と顧客から良い評価を得たという。

矢野駅前支店のコンセプトは「地元に愛されるまちかど信用金庫」。複数の設計事務所による設計プロポーザルを経て、「温かい雰囲気を重視し、地域の特性を考慮した木造建築とした」（同信金）と、日総建（東京都、濵田幸一社長）の2階に伸びる登り梁が見える。躯体は欧州産のRウッド集成材で、サイズは120×360ミリなど。執務室内に化粧として現された、同じくRウッド集成材の150ミリ角の柱が木造らしい意匠性を高めている。構造材をアクセントとして現し使いすることで、建物内部に木造の温かみを演出している。

荒神支店を木造建築としたことで「入店時に木の香りがして癒やされる」「店舗が堅苦しくなく落ち着いた感じ」「温かみがあり、金融機関を感じさせない」と顧客から良い評価を得たという。

矢野駅前支店のコンセプトは「地元に愛されるまちかど信用金庫」。複数の設計事務所による設計プロポーザルを経て、「温かい雰囲気を重視し、地域の特性を考慮した木造建築とした」（同信金）と、日総建（東京都、濵田幸一社長）の2階に伸びる登り梁が見える。躯体は欧州産のRウッド集成材で、サイズは120×360ミリなど。執務室内に化粧として現された、同じくRウッド集成材の150ミリ角の柱が木造らしい意匠性を高めている。構造材をアクセントとして現し使いすることで、建物内部に木造の温かみを演出している。

RC造や鉄骨造より簡易で済み、建築費を11％低減できる」（同信金）とのコスト優位性も注目に値する。

構造は木造在来工法。1階の来客ロビーの天井は吹き抜けとなっており、執務室上の2階に伸びる登り梁が見える。躯体は欧州産のRウッド集成材で、サイズは120×360ミリなど。執務室内に化粧として現された、同じくRウッド集成材の150ミリ角の柱が木造らしい意匠性を高めている。構造材をアクセントとして現し使いすることで、建物内部に木造の温かみを演出している。

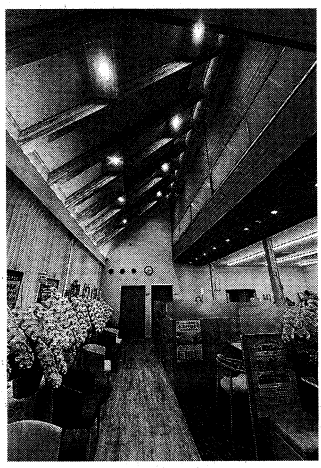
施主は「広島県産の木材を使用して地産地消を推進する」ことを要望した。構造材のうち、2階の廊下や食堂の天井に現された梁の火打ち部分には県産桧材による集成材が使用されている。

一方、外部の壁には米杉のシングルパネル（チャネルオリジナル）を鎧張りで施工。釘が表に露出しないよう板が重なる実部分に釘を打ち、下から上へ施工する手間が掛かる作業を経て木質感あふれる外観に仕上げた。

着工から約半年という短工期を可能にしたのは施工を担った平田組（呉市、平田賢二社長）に負うところが大きい。木造の一般建築に豊富な経験があり、技術に長けた職人を抱える。吹き抜けの急勾配の梁を含めた建て方に苦労しながら屋根仕舞いまで実質2日で終えた。非住宅の木造案件を複数の現場で動かすことも珍しくない同社の経験が生かされた。



米杉シングルの外壁は外観から見た目の価値を高める



吹き抜けの登り梁が木造らしい温かみを演出する

建築メモ

呉信用金庫矢野駅前支店▽所在地＝広島市安芸区矢野西4－3－1▽施主＝呉信用金庫▽施工＝平田組▽設計＝日総建▽竣工＝2026年3月▽構造＝木造在来工法2階建て▽延べ床面積309・01平方㍍。